



特別企画

災害発生時の支援体制等を準備しているクラブ



NPO法人美咲町柵原星の原スポレク倶楽部

＜岡山県美咲町＞



いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、準備や対策ができるか、また災害発生地域に対し、どのような支援ができるかを考えることは、地域の諸課題解決に向けた取り組みとなり、より地域に根差したクラブとして定着することにつながるきっかけとなりえます。

そこで、今回は、クラブの防災対策や被災地支援等の取り組みを紹介します。



1 クラブ概要

・設立経緯

平成17年、旧柵原町体育指導委員により設立準備委員会が発足。

・設立時のキーパーソン

旧柵原町体育指導委員と旧柵原町体育協会会長

・クラブの理念

「いつでも」「どこでも」「だれでも」そして「いつまでも」気軽にスポーツに親しめる「場所・時間・仲間」づくりを目指す環境を整える。

・現在までの経緯

設立当初は町の補助金でクラブを運営していましたが、先を見据えたクラブ運営をしないといけないとのことで、スポーツ振興くじ助成事業自立支援を受けている途中に文部科学省の「地域スポーツとトップスポーツの好循環事業」の受託に向けた準備を開始しました。平成25年～27年間の3年間「地域スポーツとトップスポーツの好循環事業」を受託することができ、それをきっかけに文部科学省受託事業が終わった翌年から美咲町の単町事業で小学校体育支援と保育園体育支援事業の取り組みが始まりました。平成30年度は美咲町の提案型まちづくり事業を受託し美咲町健康体操インストラクター養成講座を開催し、子どもからお年寄りまで町民の健康づくりに携わっています。

・貴重な経験を経て支援の輪が広がる

東日本大震災の時に、本クラブのクラブマネジャーが日本スポーツ協会公認資格であるクラブマネジャー養成講習会と一緒に受講した仲間からの痛切な被災地現場(体育館)の状態を聞き、何か力になれることがあればと被災地支援に取り組むようになりました。東日本大震災の際には、被災して何日か経つとストレスや不安が増し、会話もろくにできない状況下で、どんどん心を閉ざしていく方が増えていく実態も聞きました。そこで何が必要かを聞き、まずは被災地の避難先体育館で身動きできない方や子どもたちに娯楽道具を送りました。その後、支援物資の内容は軍手、虫除けスプレー、ペットボトル(水)など、時の経過とともに変化していきました。この時の貴重な経験から、各地で大きな災害などが発生する度に「支援をしたい」という輪が広がってきました。

・全国各地での「3.11忘れない」追悼イベントに発展

毎年、3月11日には福島県を支援していた全国の仲間がネットワークを組み、全国各地でスカイランタンやキャンドルなどを使い、「3.11忘れない」という追悼イベントを行っています。ただ、課題は山積み状態です。SNSでも実施を呼びかけていますが、主旨が思うように伝わらないこともありました。しかしながら、私たちが伝えたいのは、「被災地支援 同じ目的でつながり合いましょう」ということです。そのために、意志のあるクラブは、1年に1回でもいいから同じ方向と目的で3.11の教訓を子どもたちや地域に伝え、もしもの時に備えることが必要です。その想いで活動を続けています。



・西日本豪雨災害ではメディア情報が遮断 頼りはSNS

平成30年の西日本豪雨災害では、まず自クラブに対策本部を立ち上げました。しかし、我々の地域の主要な道路が寸断され身動きがとれず、インターネットは土砂崩れの影響でつながりません。さらに、美咲町はケーブルTVでの放送視聴となるため、TVで被災情報を全くつかむことができず、停電も重なり不安な2日間を過ごしました。この時に、全国の支援仲間が岡山の被災情報などをSNSで逐一届けてくれたことにより、心の不安が拭いさられ、心の支えにもなりました。

普段は当たり前のようにTVでニュースを見ていますが、それが不可能になった時、どのような手段で情報を入手したらよいかを、日頃から考えておかないといけないことを痛感しました。

・倉敷のクラブからの要請でクラブスタッフ3名派遣 福島のクラブからは義援金も届く

被災から3日後、倉敷で活動している当クラブの会員から、「倉敷の障がい者施設へ応援に来てください」との支援要請が届きました。「扇風機と電気コードリールが欲しい」、「暑くてたまらない」といった声や、泥撤去の応援要請があり、当クラブから3名を派遣しました。さらに、広島の実業クラブ協議会会長からSNSで支援物資の呼びかけがありました。広島県の筆の里スポーツクラブが指定管理をしている体育館が避難所となり、着替えのTシャツ・半ズボンが不足し、困っているとのことでした。いつも災害ネットワークを組んでいる仲間に呼びかけて、福島と島根のクラブからTシャツ・半ズボンを支援していただきました。中でも福島のクラブは東日本大震災の恩返しの観点から、当クラブに素早く義援金を振り込んでくれました。その義援金で半ズボン・Tシャツなどを購入し、その日のうちに広島に発送することができました。福島から準備をして送付すると、到着までに3日以上かかっていたことでしょう。緊急時に被災地が求めている物資を迅速に届けることの大切さを実感しました。

・北海道のクラブが取りまとめ役→効率的に支援物資を送付

その他にも学校の先生から、被災された子どもたちが筆箱を流され何もない状態で避難所にいることを危惧し、鉛筆、消しゴム、ノートなどの支援要請が届きました。

北海道のクラブが間に入り、支援できるクラブへの連絡や支援物資の取りまとめ役をしてくれたのも、大きな力となりました。そのおかげで、あるクラブは消しゴム、あるクラブは鉛筆という様に、全国のクラブから支援物資が当クラブに続々と届きました。当クラブでは、届いた物資を、クラブ職員だけでなくクラブの協賛会社も被災地へ届けてくれるなど、きめ細かい物資の配送ができました。

全国のクラブから「何か支援をしたい」という温かい声がかかり届きましたが、「本当に必要とする方に必要な物を」という基本方針もありますので、義援金を送付してもらって必要とされる物資を購入し、皆さんの気持ちを被災現地に何度も運ばせていただきました。

4

支援物資一つ一つにメッセージ添える

・被災地に赴きミニコンサートと炊き出しを実施

被災地の方に物資を持って行ったとき、全ての物資にメッセージをつけて渡しました。全国から物資がたくさん届いている中で、「このメッセージが一番嬉しい」などの言葉もいただきました。

また、皆さんが送ってくださった義援金をもとに、12月15日(土)に真備の被災地に赴き、癒しのミニコンサートと炊き出しを実施しました。そこでは被災された方が地域の皆さんのために心を通わすイベントを毎週実施しており、そこに集まって来られる皆さんの生の心の声を聴くことができました。被災者一人一人から涙ながらに被災当日のお話を聴き、計り知れない葛藤とストレスを軽減するには私たちがどのように動いたらよいのか考えさせられる1日となりましたが、被災された方々は「今日元気がもらえたので、また頑張れます」と涙を流して喜んでくれました。1秒1分でも皆さんが笑顔を取り戻してくれることを願って私たちは頑張ろうと感じた1日でもありました。



炊き出し中(12月15日 倉敷市真備町にて)

5

支援物資振り分けに不可欠なコーディネート役

全国のクラブとの支援ネットワーク構築を目指す

当クラブでは2名が防災士資格を取得しました。資格うんぬんより、資格取得のため学んだことは大変重要です。それをクラブにどう生かしていくか考えなくてはなりません。そこで、クラブの教室の中でミニ防災知識講座を開いたり、防災グッズ展示コーナーを設けたりと、日頃から防災に興味・関心を持ってもらうことにも力を注いでいます。また、現在始まっている健康体操インストラクター講座でも、いざという時にエコノミー症候群にならないための運動内容を少しずつ取り入れています。

被災地支援については、被災地で困っている物をSNSで拡散投稿してしまうと、同じ物ばかりが届いてしまうので、それを振り分けるためのコーディネート力が必要と感じました。また、被災県のSNSを中継して支援のコーディネーター役を申し出てくれるクラブがいたことが大変心強かったです。全国の総合型地域スポーツクラブのつながりに感謝するとともに、助けていただいたことに深く御礼を申し上げます。

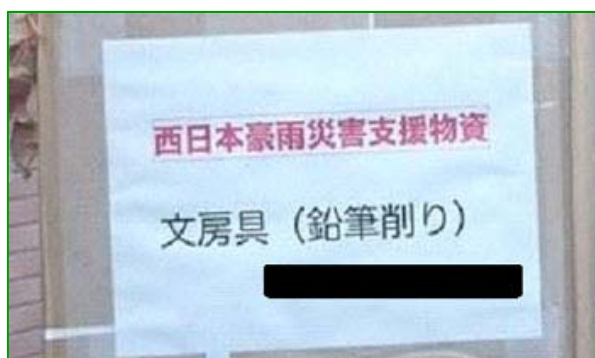
クラブとしては、これからも「いつ、どこで起こるか分からない災害」では、まずは自分の身を守ることを最優先に呼びかけることを遵守していきます。さらには、被災地からの支援要請があった際に、現地の困った声を聴いて素早く動ける態勢づくりを、今から広げて行動を起こさなければならないと感じています。そして、全国の総合型スポーツクラブとネットワークを構築できるよう働きかけていきたいです。

6 他クラブへのアドバイス

・支援呼びかけの際は、きめ細かな対応を

SNSは便利ですが、支援物資を呼びかける際には、注意が必要です。例えば、当クラブのように「Aクラブはバスタオル」、「Bクラブはペットボトル飲料水500ml(水)」など、丁寧かつ具体的な呼びかけが大切です。梱包箱には「支援物資」と大きく明記し、「バスタオル10枚」などと中身の詳細も記載してください。こうしたきめ細かな対応が必要であることを、このたびの災害で痛切に感じました。

(NPO法人美咲町柵原星の原スポレク倶楽部理事長 表田 実典)



支援物資(北海道のクラブより)



グッズを手渡し
(12月15日 倉敷市真備町にて)

クラブプロフィール

設立年月日 平成18年6月30日

所在地 岡山県久米郡美咲町 柵原地区

運 営 会員数402名(平成30年12月現在)、予算規模1,200万円(平成30年度)

有給職員 2名

特 徴 より多くの住民が世代を超え、健康づくりと仲間づくりの拠点として各種団体と協力して地域になくてはならない存在として親しまれるクラブを目指しています。また、人が集い知らない人同士もクラブを通じてコミュニケーションを深められるよう、ホッとする場所、集まりたくなるような場所をつくっています。さらに、笑顔が絶えない明るい地域づくりに貢献し、何よりも町のみなさんが元気になるようサポートしていくクラブです。

連絡先 〒708-1533 岡山県久米郡美咲町久木200-8

TEL 0868-62-1165 FAX 0868-62-1197

E-Mail hoshinosato@cyerry.net

URL <http://hoshinosato-sr.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/suporeku.yanahara/>



足湯支援(8月25日)